



ロビン・ウォール・キマラー著『植物と叡智の守り 人—ネイティブアメリカンの植物学者が語る科学・ 癒し・伝承—』「落ちてきたスカイウーマン」より

西欧の伝統では、生き物たちには序列があり、もちろんその頂点に人間がいる。人間は進化の頂点にあり、創造主の秘蔵っ子だ。そして植物が序列の一番下にある。だがネイティブアメリカンの考え方では、人間は「創造主が作った年下の兄弟」と呼ばれることが多い。生きる、ということについて人間が一番経験が浅く、学ぶべきことが一番多い。だから他の生き物たちを先生として、教えを乞わなければならない、と言うのである。彼らの叡智はその暮らし方を見ればわかる。彼らは私たちに手本を示すことで教えてくれる。彼らは人間よりもはるかに昔からこの地球に暮らし、色々なことがわかっているのだ。地上に暮らすものも地下に暮らすものもおり、スカイワールドと地球をつないでいる。植物は、光と水から食べ物を作る術を知っており、そしてそれを無償で差し出す。

ロビン・ウォール・キマラー著 『植物と叡智の守り人—ネイティブアメリカンの植物学者が語る科学・癒し・伝承—』 三木直子訳 築地書館 2018年



作者不明 《日月粟穂図屏風》(部分) シカゴ美術館